

方面実動演習

第四十二普通科連隊を基幹とし編成された第四十二戦闘団（戦闘団長 山本一佐以下約九百四十名）は平成二十三年十一月九日から十八日までの間、日出生台演習場を離島に想定し実施された方面実動演習に参加した。



本演習は、二十三年度自衛隊統合演習の一環で西部方面隊が実施する訓練の中では最も大規模な演習であり、多様な事態に有効に対応するために中央即応集団を始めとし各種協同部隊との連携を深め、方面隊の武力攻撃対処能力の維持向上を図る目的で実施され、連隊は離島における

部隊の展開から防御戦闘までの一連の課目を実施した。



第四十二戦闘団は、十一月九日（水）から十日（木）にかけて、地上・海上及び空中機動の三派に分派して離島への部隊移動を開始し、空中機動の先遣部隊による掩護態勢



下に、海上機動による主力が上陸し、すみやかに各陣地地域の安全化を図りつつ、山本戦闘団長は、各級指揮官に対して防御準備命令を下達し戦闘団の綿密な防御計画に基づき掩体構築等の防御準備に移行した。

十五日（火）第一空挺団第一大隊長（古越二佐）以下約二百四十名が離島に空挺降下し、第四十二戦闘団長の指揮に加入した。

作戦会議において戦闘団長は、防御命令下達及び戦闘指導を実施し、各部隊の認識の統一を図り、戦闘準備を推進した。

十七日（木）早朝、離島全域において防御戦闘に突入した。戦車小隊を配属した第四中隊の戦



闘前哨としての戦闘に引き続き、戦場は、主戦闘地域の戦闘に移行した。

敵の上陸侵攻に伴い、第一中隊・第二中隊・第三中隊を並列した主戦闘地域では、交戦状態に突入り、戦闘団は重迫撃砲中隊・第八特科連隊第二大隊の砲迫火力、第八高射特科大隊の対空火力、対戦車中隊、第八戦車大隊及び空挺大隊の対機甲火力、諸職種部隊との密接な相互連携で、敵の侵攻を阻止した。



第四十二戦闘団は、戦闘団長の要望事項「諸職種との密接な相互連携」「基本基礎の確行と徹底」を具現化するとともに、戦闘団の任務に基づき各人の任務を一つ一つ確実に実行し、方面実動演習における貴重な教訓を得て終了した。